

【呼吸器科】144-1【非小細胞肺癌】
(第 コース目)

*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:		
医師名:	印		
身長:	cm	体重:	kg
体表面積:	m ²	Cr:	mg/dL

■レジメン 下記が1コースの投与スケジュール : 3週ごとを1コースとする

Day	-8	1	2	8	15	~21
施行日	/	/	/	/	/	/
ライブリバント		↓	↓	↓	↓	
ペメトレキセド		↓	↓	↓	↓	
カルボプラチン		↓	↓	↓	↓	
パンピタン末(経口)		↓	↓	↓	↓	
メコバラミン注(筋注)		↓	↓	↓	↓	

初回投与の7日以上前から薬酸として1日1回0.5mgを連日経口投与する。

メコバラミン注(ビタミンB12): 初回投与の少なくとも7日前に、1回1mgを筋肉内投与する。その後、9週毎(3コース毎)に1回投与する。

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順		
※①		生食 500mL 24時間
※①		同時に 側管より ボラミン注5mg 1A ガスター注20mg 1A アセリオ点滴静注 1000mg 30分
②		生食 50mL 10分
③		●ライブリバント【 】mg 生食 243mL 投与速度は「■注意事項」参照
④		生食 50mL 10分
⑤		アロカリス注235mg 1V デキサー注6.6mg 2V グラニセロンバッグ 100mL 30分
⑥		●ペメトレキセド【 】mg 生食 100mL 10分
⑦		●カルボプラチン【 】mg 5%ブドウ糖液 250mL 1時間
⑧		生食 50mL 10分

■投与量	※投与量の参考
薬剤名	標準投与量
ライブリバント	《Day1》 350mg/body 《Day2》 1050mg/body 《Day8,15》 1400mg/body
ペメトレキセド	500 mg/m ² mg/Body
カルボプラチン	AUC=5 mg/Body

薬剤師	看護師	看護師

- 注意・確認事項
- 点滴セットはフィルター付き輸液ルートを使用すること。
 - ライブリバントは調製後10時間以内に投与終了すること。
 - NSAIDsとの併用は注意して下さい。
 - 1週間以上前から薬酸を服用していることと、ビタミンB12の筋肉内注射投与を受けたことを確認すること。
 - infusion reaction予防として、前々日:デカドロン錠16mg昼夕食後+前日:デカドロン錠16mg朝夕食後+当日:デカドロン錠8mg朝食後服用する
 - ライブリバントの投与速度
投与開始は50mL/時で開始し、Infusion reactionが認められない場合は、
投与開始2時間後に75mL/時 に投与速度を上げることができる。
 - infusion reactionが認められた場合は投与を中断し、症状が回復した場合、発現時の50%の投与速度で再開する。
再開後の30分間にinfusion reaction の症状が認められない場合、中断時の投与速度まで上げることができる。
その後の2時間にinfusion reactionの症状が認められない場合、同日に予定されていた最高速度まで上げることができる。
infusion reactionによる投与中断・再開時に症状が再発した場合、投与中止を検討する。